

1570年4月 織田信長越前攻め(金ヶ崎の退き口)と徳川家康伝承

西暦 1570年		出 来 事	備 考
永禄 13年	4月20日	若狭国大飯郡石山城主武藤上野討伐を名目に、織田信長が3万の軍勢を率いて京を出陣。家康も同行(諸説あり)。	『信長公記』、『太閤記』、『三河物語』、『国吉籠城記』などでは家康同行を記すが、いずれも後世の二次史料。同時代の一次史料に家康同行を示すものは確認されていない。
	4月22日	軍勢、琵琶湖制を北上し、若狭国遠敷郡熊川に至る。信長、松宮玄蕃館に着陣。家康は 徳法寺 に着陣。	徳法寺 …若狭町熊川。沼田氏菩提寺、熊川城入口。当時は「徳法寺」。境内に「徳川家康腰掛けの松」があった。
元亀元年	4月23日	永禄から元亀に改元。軍勢、熊川を出陣して丹後街道を北上、信長、秀吉は若狭国三方郡佐柿の国吉城に入城。丹羽長秀は木野村、高浜の逸見駿河守は坂尻村に着陣。家康は 別所ヶ原 に着陣(『国吉籠城記』)。	別所ヶ原 …美浜町西部の集落。ただし、「別所」の解釈については、①別所区付近を指す、②記述の文脈(先に信長、秀吉が国吉城に着陣したことを記す)から、「(二人とは)別の場所」を指す…の解釈があり、『国吉籠城記』でも別々の解釈をする諸本がある。
		国吉城 本丸の大石 で、秀吉と家康が囲碁に興じたという(伝承)。	本丸の大石 …以前には大石は見えなかったが、平成25～26年度の発掘調査で、北西虎口跡から平らかな巨石が出土。国吉城石垣化に伴う改修で置かれた「鏡石」。石を見た後世の人々が想像？
	4月25日	越前国敦賀郡に侵攻。手筒山城落城(『信長公記』等)。	
	4月26日	金ヶ崎城降伏開城。軍勢、金ヶ崎城に入城。家康、先陣として 木の芽峠 へ？	木の芽峠 …敦賀市と南越前町の境。敦賀から越前府中、一乗谷を行き来する主要な幹道。周辺尾根筋には「木の芽峠城砦群」が点在。
	4月27日～	信長、義弟浅井長政逆心の報に接し、わずかな供回りで京に撤退。敦賀～若狭～朽木越えを経て、30日に京に着(『信長公記』等)。	・『信長公記』、『太閤記』等では、信長が秀吉に殿軍を命じているが、証明する一次史料はない。同時期史料(一次史料)である「一色藤長書状」(『武家雲箋』)には、伝聞として摂津守護池田勝正、幕府奉公衆明智光秀らが担ったと伝える。 ・主君に続いて身分が高い順に撤退したと思われ、武士の出ではない木下秀吉などは序列的に底辺。結果的に後衛(殿軍)に属したとみられる。 ・先陣として木の芽峠付近にいた家康軍が後衛を追いかけて実質の殿軍？ ・軍勢は、いきなり京を目指したわけではなく、本陣とした国吉城への撤退が定石。国吉城から京へは若狭衆の先導もあって肅々と退却した可能性が高い。
		家康、 佐田 で全滅寸前の木下秀吉を救う(『東遷基業』)。 	・ 佐田 …美浜町東部、若越国境に接する集落。 ・美浜町合併前、旧山東村では、『東遷基業』を基に地域の歴史として家康の活躍を教えていた。(以下、『山東村の歴史』1950 長者尚徳) 「家康が金ヶ崎より軍を引いた時は、朝倉の追軍と黒浜(佐田の海岸を砂黒きため、この様に云う)に戦い、かねて先鋒をして戦い破れて丹生に逃げ、再び此の合戦に出て来た木下藤吉郎の一命をこの一戦に於いても救い、藤吉郎に厚く感謝せられたと云うのです。」 「…佐田田辺善作氏が佐田下田にて得たと云う赤錆の曲れるボロ小刀を得たが、平打(ち)、血みぞ(溝)なし、()そ(反)り弱く、つば(鐙)の彫(り)幼稚にして時代が合致するからこの合戦に用いたものと思っている。」 ・かつて佐田の集落内に「朝倉の墓」と伝わる塚(土饅頭)が点在していた(地元区民の話)。
		家康、 松原 に陣す(『東遷基業』)。  	・ 松原 …美浜町北部の若狭湾沿岸の集落。「縫路を取て帰陣すべしと、所の案内者を先に立て、木野を通り、松原と云処に宿陣ありける」。 ・『目で見える美浜の文化財』(1980 美浜町教育委員会)巻末の「美浜町指定文化財一覧」に、「史跡 徳川家康陣屋跡 松原」とあるほか、かつて旧西郷中学校付近にあった「徳川家康陣跡(久々子)」の碑の写真を掲載。
		家康、 土井山砦 に陣す(伝承)。  	・「金ヶ崎の退き口で若狭国まで退却した木下藤吉郎は国吉城に、徳川家康は土井山砦に一時立て籠もったという伝承がある。」(大森宏『戦国の若狭』1996) ・ 土井山砦 …国吉城の出城と伝わり、耳平野西端の独立丘陵北部(標高69.4m)に位置する。北側の麓を東西に丹後街道が通過し、丘陵の西側は『国吉籠城記』諸本に出てくる徳川家康が陣を張ったという別所ヶ原。現在、北麓の五湖の駅に説明板があり。町の給水タンク建設時に破壊されたが、堀切で区画された連郭式曲輪群の一部と、南側尾根筋とは堀切が残存。
		家康、 針畑越え で若狭から京へ向かう(伝承)。	・ 針畑越え …若狭国遠敷郡上根来から針畑峠を越えて朽木を経由し、京都鞍馬に至る幹道。起伏の激しい陰しい道ながら、若狭と京を結ぶ最短ルートとされる。若狭から京に撤退する家康が越えたという伝承がある。
	5月6日	明智光秀と丹羽長秀、若狭国大飯郡の石山城に赴き、人質を取って城館は破却(『信長公記』)。	